

令和6年度 1年 理科 年間指導計画・評価計画

1. 目指す生徒像

<p>学年末の到達目標（第1学年で重視する学習過程）</p> <p>「理科の見方・考え方を働かせ、自然の事物・現象から問題に気付き、自ら課題を設定する資質・能力を育成する」</p> <p>『知識・技能』自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>『思考・判断・表現』観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>『主体的に学習に取り組む態度』自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

2. 評価方法

観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	ワークシート、問題集 定期テスト	ワークシート、問題集 定期テスト 実験レポート	授業内での問題への取り組み 授業内での発表 提出課題

3. 年間指導計画・評価規準

月	単元	時数	学習活動	①	②	③	評価規準（おおむね満足できる B）
4 5 6	序章 自然の中にあふれる生命	19	<p>序章 自然観察のポイント</p> <p>1 身のまわりの生物の観察 ○校庭や学校周辺の生物の観察を行い、いろいろな生物が様々な場所で生活していることを見いだして理解するとともに、観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付ける。</p> <p>2 生物のなかま分けのしかた ○いろいろな生物を比較して見いだした共通点や相違点をもとにして分類できることを理解するとともに、分類の仕方の基礎を身に付ける。</p>	○	○	○	<p>○いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類の仕方、生物の体の共通点と相違点を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>○身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現している。【思考・判断・表現】</p> <p>○いろいろな生物とその共通点に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p>

	<p>いろいろな生物とその共通点</p>	19	<p>1章 植物の特徴と分類 ○身近な植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解する。 ○その共通点や相違点に基づいて植物が分類できることを見いだして理解する。</p> <p>2章 動物の特徴と分類 ○身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解する。 ○その共通点や相違点に基づいて動物が分類できることを見いだして理解する。</p>			
6 7 9	<p>身のまわりの物質</p>	27	<p>1章 いろいろな物質とその性質 ○身のまわりの物質の性質を様々な方法で調べる実験を行い、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解する。 ○ガスバーナーや電子てんびんなどの実験器具の操作、記録のしかたなどの技能を身に付ける。</p> <p>2章 いろいろな気体とその性質 ○気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解する。 ○気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身に付ける。</p> <p>3章 水溶液の性質 ○物質が水に溶ける際の水溶液の均一性を、</p>	○	○	<p>○身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、物質のすがた、水溶液、状態変化を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【知識・技能】</p> <p>○身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現している。 【思考・判断・表現】</p> <p>○身のまわりの物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>

			<p>粒子のモデルで理解する。 ○水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けて理解する。</p> <p>4章 物質のすがたとその変化 ○物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解する。 ○物質の融点や沸点を境に状態が変化することを知る。 ○混合物を加熱する実験を行い、沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだして理解する。</p>			
10 11 12	光・音・力による現象	26	<p>1章 光による現象 ○光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いださせる。また、凸レンズのはたらきについての実験を行い、物体の位置と像の位置および像の大きさや向き関係を見いだす。</p> <p>2章 音による現象 ○音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じること、音は波として空気中を約 340m/s の速さで伝わること、および音の大きさや高さは音源の振動のしかたに関係することを見いだす。</p> <p>3章 力による現象 ○物体に力をはたらかせる実験を行い、物体に力をはたらくとその物体が変形したり、動き始めたり、運動のようすが変わったりすることを見いださせるとともに、力は大きさと</p>	○	○	<p>○身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音、力の働きを理解していると同時に、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【知識・技能】</p> <p>○身近な物理現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現している。 【思考・判断・表現】</p> <p>○身近な物理現象に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>

			向きによって表されることを理解する。 ○2 力のつり合いの実験を行い，1 つの物体にはたらく2 力がつり合う条件を見だし理解する。			
1 2 3	活きている地球	24	<p>1章 身近な大地 ○身近な地形などの観察を通して，大地の成り立ちなどを理解する。 ○観察器具の基本的な扱い方などを身に付ける。</p> <p>2章 ゆれる大地 ○地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解させ，記録の分析により地震のゆれの伝わり方の規則性を見いだす。 ○地震の原因などをプレートとの動きと関連付けて理解する。</p> <p>3章 火をふく大地 ○様々な火山の活動などを調べ，それらの様子はマグマの性質が深く関係していることを考察するとともに，マグマからできる火成岩の特徴を，成因と関連づけて理解する。</p> <p>4章 語る大地 ○地層の重なり方や広がり方の規則性を捉えさせ，構成する岩石や化石をもとに，地層が堆積した時代や当時の環境を推測することを通じて，地層のでき方を理解する。</p> <p>○プレートと火山活動や地震などとの関連を総合的に捉えさせ，大地からの恵みや災害について理解する。</p>	○	○	<p>○大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら，身近な地形や地層，岩石の観察，地層の重なりと過去の様子，火山と地震，自然の恵みと火山災害・地震災害を理解しているとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けている。 【知識・技能】</p> <p>○大地の成り立ちと変化について，問題を見だし見通しをもって観察，実験などを行い，地層の重なり方や広がり方の規則性，地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現している。 【思考・判断・表現】</p> <p>○大地の成り立ちと変化に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>